

“登録するだけ”で相談が進む？Gem デモで体感した、コミュニティ活用の入口

はじめに

本資料は、「ゆっくり AI×ファシリテーション勉強会（第 17 回）」で実際に行われた内容をもとに、勉強会の中では語りきれなかった背景・ツールの構造・AI 活用に関する洞察を補足する目的で作成したものです。

勉強会では「触ってみる」「体感する」を重視しましたが、本資料では一歩踏み込み、なぜこのアプローチが有効なのかを整理します。

1. TsunagaLink とは何か

— 単なる名簿ではなく「つながりを動かすための土台」

TsunagaLink は、コミュニティ参加者のプロフィール情報を蓄積し、必要なときに「誰に何を相談できそうか」「どんなつながりが生まれそうか」を考えるための土台になる仕組みです。

第 17 回では、プロフィール情報を登録する方法を画面共有で確認し、現在 **34 名が登録**されていることが共有されました。

重要なのは、TsunagaLink が“答えを決める”ためのものではなく、**対話のきっかけを増やす**ためのものだという点です。関係性は本来あいまいで、状況や目的によって変わります。だからこそ、まず情報を整え、必要に応じて「探せる」状態にしておくことが、コミュニティ活用の第一歩になります。

2. 第 17 回で体験した「登録デモ→Gem デモ」の意味

— “登録”がゴールではなく、“相談が進む状態”を作る

今回の中心は「登録デモ→Gem デモ」でした。

ここでいう“登録するだけ”は、**登録さえすれば自動で解決する**という意味ではありません。より正確には、次のような意味合いです。

- **登録すると、相談の前提がそろう**
何者で、何に関心があり、何をしたいのか。こうした“前提”があると、相談の入口が作りやすくなります。登録はそのための土台です。
- **前提があると、Gem との会話が具体化しやすい**
第 17 回では、登録情報を手がかりに Gem を使い、「やりたいこと」について相談・壁打ちできるイメージをデモで確認しました。

つまり、今回の体験は「登録という整備」と「Gem という対話」をつなげて、**コミュニティの知見を“引き出す入口”をつくる**試みだったと言えます。

3. Gem（AI）を“相談の相手”にする時の基本姿勢

— AI は答える存在ではなく、問いを前に進める補助線

第 17 回では、Gem が「事前に設定した指示（プロンプト）に従い、対話形式で回答する」存在として共有されました。

このとき大切なのは、AI を「正解を出す機械」として扱わないことです。むしろ、次の役割に寄せると価値が出ます。

- 考えを整理する（論点を可視化する）
- 選択肢を増やす（視点を広げる）
- 次の一步を小さくする（行動に落とす）

これらはファシリテーションの本質とも重なります。場の中で人が判断し、AI は整理や発想を補助する。役割分担ができると、短時間でも“前に進む会話”が成立します。

4. ハルシネーション（誤り）との付き合い方

— “怖いから使わない”ではなく、“前提にして運用する”

第 17 回では、AI の生成回答について、誤り（ハルシネーション）に触れつつ「微調整・修正していく」観点が共有されました。

ここでのポイントは、ハルシネーションを“欠陥”としてだけ捉えるのではなく、**運用設計の課題**として扱うことです。実務やコミュニティでの AI 活用では、次の姿勢が現実的です。

- AI の出力をそのまま採用しない（一次情報で確認する）
- 分からないことは分からないと言わせる（空欄を埋めさせない）
- 改善点をフィードバックし、精度を上げるサイクルに入れる

AI を使う価値は「当てること」だけではありません。むしろ、問いが明確になり、検証の観点が生まれ、次の対話に進めることにあります。今回“誤りも含めて”議論できたこと自体が、成熟した使い方の入口になっています。

5. AI×ファシリテーションという視点

— AI で場を置き換えるのではなく、場を支える

第 17 回の勉強会は「講師が教える」形式ではなく、デモを起点にして理解を合わせ、必要に応じて質問を投げるスタイルでした。

この形は、AI 活用に向いています。理由は、AI をめぐる学びは“知識”よりも“運用”に近く、使いながら問いが育つからです。

また、今回のように短時間で続けられる設計は、参加者にとって「重くない入口」になります。実際、チャットには「早速使ってみます」「登録してみます」といった反応が見られました。

小さな行動が増えるほど、登録情報が育ち、相談の質が上がり、コミュニティの知見も蓄積されていきます。

6. 今後に向けた洞察

— AI ツールの価値は「何ができるか」より「何を生みたいか」で決まる

第 17 回で見たのは、TsunagaLink と Gem が、単なる便利ツールではなく「つながりと知見を増やす装置」になり得るということです。

一方で、その価値は自動的に立ち上がるものではなく、登録の更新、問いの工夫、誤りへのフィードバックなど、**人の運用**で育っていきます。

今後、継続開催によって参加の習慣化と登録者の増加が進めば、相談の解像度はさらに上がっていくはずです。さらに「もっと詳しく知りたい」という声が増えてくれば、テーマ別のスピンオフ企画（個別回）など、より深い学びへ展開する余地も広がります。

おわりに

AI は急速に進化していますが、人と人の関係性や、コミュニティの信頼は一朝一夕では育ちません。だからこそ、短時間・少人数で、対話を重ねながら試せる場の価値は、今後さらに高まっていくでしょう。

本資料が、第 17 回の体験を振り返り、次の一步を考える手がかりになれば幸いです。

※ご留意ください

本資料は、Creative Guild で開催した勉強会の内容をもとに、AI（ChatGPT）を活用して自動生成されたものです。内容の正確性や完全性については保証できない点をご理解ください。ご自身の判断や追加の調査とあわせてご活用いただければ幸いです。Creative Guild は本資料の内容に対する責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。